

令和6年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和6年7月3日
愛知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並 7月の気温は高い	± ± +
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 予察灯で誘殺が確認された 6月末までの飛来予測回数は平年並	± + ±
	セジロウンカ	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 6月末までの飛来予測回数は平年並	+ ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	畦畔における6月の発生量は やや多い 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は平年並	+ ±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-

・防除対策

〔イネ紋枯病〕

紋枯病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場で発生を確認したら、病斑が上位葉に伸展する前に、オリブライト250G、バリダシン液剤5、モンカット粒剤などで防除しましょう。

〔トビイロウンカ・セジロウンカ〕

長久手市の予察灯で7月2日にトビイロウンカが1頭誘殺されました。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

〔斑点米カメムシ類〕

イネカメムシが一部のほ場で発生しており、今後、発生の拡大が予想されます。

本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

・留意事項

一部ほ場でいもち病（葉いもち）の発生が確認されました。今後のほ場の発生状況に注意しましょう。詳しくは本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

イネ白葉枯病は幼穂形成期から出穂期までに発生が目立つと減収などの被害のおそれがあります。発生後の防除は困難なため、前年発生の多かったほ場では、出穂3～4週間前に防除しましょう。また、畦畔等の除草を徹底するとともに、浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょう。

イネ縞葉枯病の発生を認めた場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。詳細は6月17日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

ニカメイガについて、6月下旬に県内で行った巡回調査において、被害株率は0.11%（平年0.14%、前年0.37%）で平年並でした。しかし、越冬世代成虫の多かった地域では、今後の発生が多くなる可能性があります。ウェブページ「あいち病害虫情報」に掲載の調査データ（予察灯の誘殺数データ）などを活用し、今後も本虫の発生状況について注意してください。

山間地域でイネドロオイムシによる被害が多いほ場がありました。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、オオタバコガの誘殺数がやや多い状況です。詳細は本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。また、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウの誘殺数が多い地域がありますので、ほ場の発生状況に注意してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生 量は平年並	±
				粘着トラップにおける誘殺数 は平年並	±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシン クイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 6月のモモの発生量は平年並	+ ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	灰星病	やや多い	県全域	4月の発病花率はやや高い 7月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	ナシヒメシン クイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 6月の発生量は平年並	+ ±
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は高い	- +
ブドウ	べと病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生 量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数 はやや少ない	+ -
カキ	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	コカガラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	予察灯及びフェロモントラッ プにおける誘殺数は多い	+

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

フロンサイドSCなどで防除しましょう。

[ナシ・ナシヒメシクイ]

ディアナWDG、エクシレルSEなどで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシクイ]

ディアナWDG、フェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

カネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

[モモ・灰星病]

発病果実は伝染源となるので摘除して土中深く埋めるか、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

5月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第2号」を参考にしてください。農薬散布にあたっては、収穫前日数に十分注意して散布しましょう。

・留意事項

クビアカツヤカミキリの成虫が確認されています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。詳細は、令和6年6月18日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号」を参照してください。果樹園（特にモモ）で発生を確認しましたら、農業総合試験場病害虫防除室もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/3	7/5	6/28	6/30	7/2	7/3	7/2	7/1	7/5	7/2	第2世代	7/5
第4世代	7/21	7/24	7/17	7/19	7/21	7/22	7/21	7/21	7/24	7/21	第3世代	7/27
(前年)	7/21	7/21	7/15	7/17	7/21	7/21	7/20	7/20	7/24	7/20	(前年)	7/28
前年差	±0	3日遅	2日遅	2日遅	±0	1日遅	1日遅	1日遅	±0	1日遅	前年差	1日早

各地のアメダス平均気温から予測。7月2日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

野菜

・留意事項

イチゴ炭疽病の育苗ほ場での発生が多くなる時期です。農薬の予防散布に努めましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類はウイルスを媒介します。発生がある施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

シロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。防除対策等は、本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

トマトキバガは、県内でもフェロモントラップでの誘殺を確認した地域が拡大してい

ます。詳しくは本日発表の「トマトキバガ情報第2号」を参照してください。

サツマイモ基腐病が全国的に発生しています。発生株がある場合、雨季に感染拡大するおそれがあります。排水対策を行うとともに、早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版）
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	平坦部	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	白さび病	多い	山間部	6月の発生量は多い 7月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± ＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	＋ ＋
	アザミウマ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	－
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋

・防除対策

〔キク（露地）・白さび病〕

本日発表の「キク白さび病情報第1号」を参考にしてください。

〔キク（露地）・アブラムシ類〕

発生ほ場では、ウララ 50D F やコルト顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔キク（露地）・ハダニ類〕

発生ほ場では、カネマイトフロアブルやコロマイト乳剤などで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょう。

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。防除対策等は、本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台6月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：10% 高い：80%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%